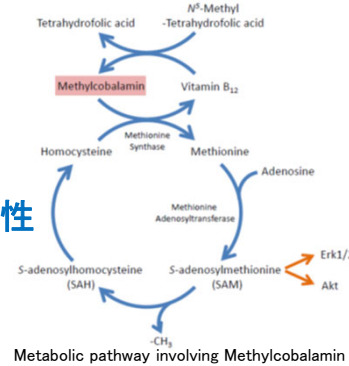


筋萎縮性側索硬化症(ALS)新規治療開発及び治療開発拠点の設立

ALSは何故発症するのか

～治療薬開発への着目点～

- ・グルタミン酸毒性－興奮性細胞死
- ・ホモシステイン毒性
- ・酸化的ストレス(活性酸素)による毒性
- ・ミトコンドリア障害
- ・その他

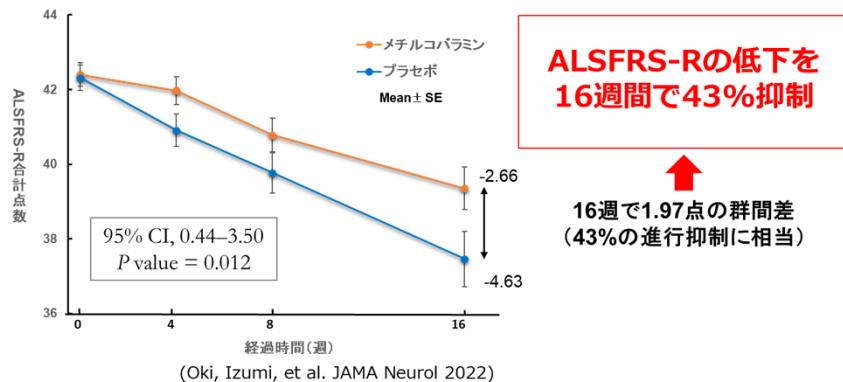


ALS治療薬開発プロジェクト

JETALS - 第III相医師主導治験 -

高用量メチルコバラミンのALSに対する第III相試験

Japan Early-stage Trial of high dose methylcobalamin for ALS



EPIC-ALS - 第II相医師主導治験 -

EPI-589の筋萎縮性側索硬化症を対象とした探索的試験

EPI-589 Early Phase 2 Investigator-initiated Clinical Trial for ALS

～研究内容～

筋萎縮性側索硬化症(ALS)は難病中の難病として知られるが、症状は骨格筋障害による全身の筋萎縮、筋力低下、構音障害、嚥下障害、呼吸障害をきたす。特に呼吸障害は生命を脅かすものでありその対応には人工呼吸器が必要になる。ALSは原因不明であるためそれを解明する様々な取り組みを行うとともに、効果が期待される薬剤の治験を医師主導治験、企業治験で実施してきた。特に高容量メチルコバラミンの医師主導治験は徳島大学が主幹した初めての医師主導治験であり、第III相試験でその有効性が証明できたため現在薬事承認に向けて準備を進めている。ALSは痛み、便秘、排尿障害、唾液過多、認知機能障害、眼球運動障害などの症状も呈するが、これまでこれらの症状は治療の対象とすら捉えられておらず、そのため治療の開発も手掛けられていなかった。最近になってようやく唾液過多に対する企業治験が開始され徳島大学も参加している。私どもは大学にて、ALSの原因解明を進め、ALSの様々な症状に対する治療薬開発の拠点を構築し、患者様、家族様、病院、大学へ質の高い治療、技術と学術的価値等を提供すると共に、地域への経済的循環・活性化へつなげて行く。

いずみ ゆいしん

氏名：和泉 唯信

研究分野：臨床神経科学分野

徳島大学産業院事務局

TEL：088-656-5087

E-mail：info.sangyoin@tokushima-u.ac.jp

